



ぴらぴだより

No.2 2021.4.28

昨年度、ぴらぴを巣立ったおおくりの子どもたち。どんな一年生に
なただろう?と 想いながらの4月でした。先日、息子たちの通う
軽井沢西部小学校の授業参観があり、行ってきました。隼くん、
蓮花ちゃんのクラスも覗いてきました。隼くんはペアの女の子と、それはとくは
楽しそうにはしゃいでいる姿がありました。蓮花ちゃんは席に姿勢よく座って、先生の
話を聞いているところでした。御代田北川に行、た菜子ちゃんのお母さん(びん
み)からは、入学式が終わった後に、メールをもらいました。

『こんにちは。今日は祝電をありがとうございます。見慣れたまゆさんの字と
素敵な言葉に涙が出そうになりました。』(一部抜粋)

きっと、涙腺の弱いびんみさんはほろほろと涙を流したんだろうな。と想像
しました。それと同時に、私もそんな経験をしたことを思い出しました。

4年前、長男がぴらぴを巣立ち、小学校に入学した時のことです。
ぴらぴからの仲間は誰一人いなくて、友達と呼べる人もいない中、ドキドキの
入学式を迎えました。昇降口を入って、東の掲示板に祝電が貼ってあるの
を見つけました。その中の一つ、小さなポストカード。まゆさんからの手書きの
メッセージ! 見慣れた文字にホッと、「森のようちえんぴらぴ」という文字に
涙が止まらなくなりました。晴れの日には泣いているのは私だけでした...

それでもその素敵な言葉たちに背中を押されて教室に向かったのです。

息子たちがぴらぴに入った8年前、ぴらぴの西暦布物、全てが手書き
でした。毎月のぴらぴだよりも、年間計画表も年度末に頂く子どもたちのカードも。
その手書き文字を見ていたので、その文字たちに再会した時の安堵感を得られたり、

その人が「傾」にいてくれるような気持ちになるのでは(よう)か。

私が小学生の頃、遠足の日、母はいつもお弁当の中に手紙を入れてくれていました。母が描くイラストと共に、(ほん)一言、「かえって歩いてね!」そんなメッセージがうれしかったのを思い出します。そして、今でも白馬の実家から送られてくる自家栽培の野菜たちの中に必ず母の直筆の手紙が添えられています。懐かしくてあたたかい気持ちになるのです。

今一度、手書きの良さを感じて、この原稿も手書きにしてみました。

春休みめに本屋さんで手に取った本の中に「スマホ脳」がありました。その中の第9章「バカになっていく子どもたち」は、背筋がゾッとしました。ご紹介致します。

幼児には向かないタブレット学習

カロリンスカ医科大学付属病院小児科のヒューゴ・ラーゲルクランツ教授は長年、子どもの脳の発達を研究してきた。彼はタブレット端末が発達を助けるというアイデアには批判的で、むしろ小さい子供の場合は発達が遅れる可能性もあるという。テクノロジーがごく幼い子供にも良いとする誤った考えは、子どもたちを小さな大人としてみている点にあると指摘する。二歳児はアプリのパズルではなく、本物のパズルをすることで指の運動能力を鍛え、形や材質の感覚を身に着ける。そういった効果はiPadでは失われてしまう。皆がキーボードを使う今、手で書いたり、きれいな字を書く練習をするなんて何の意味もないように思えるかもしれない。だから、教室の窓から文字の練習帳を投げ捨てて、代わりにタブレット端末やパソコンで書くことに集中しよう!もちろん、すでに書くことのできる大人はそれでいいだろう。しかし、まだ書くことを習得していない場合は、ペンを使って練習をすることで文字を覚えていく。就学前の子供を対象にした研究では、手で、つまり紙とペンで書くという運動能力が、文字を読む能力とも深くかかわっているのが示されている。

小児科医の専門誌でも、普通に遊ぶ代わりにタブレット端末やスマホを長時間使っている子供は、後々、算数や理論科目を学ぶために必要な運動機能を得られないと警告している。

『新潮新書 スマホ脳 アンデシュ・ハンセン 久山葉子(訳)』

スマホやタブレットは、今、私たちの生活の中でなくてはならないものになっています。実際、びっくりでもみんなが共有したいエピソードは、スマホアプリを利用しているし、その方が仕事の能率もグッと上がります。

電子機器を上手に、自分の暮らしに添える程度に使っていけたら良いと思っています。そして、手書きのじじ地好き、懐かし、そんな事も感じながら、日々がよりよいものになりますように... とじじを込めて

中村 洲耶香

森のみちくさおいしいお話し 5月

五葉木通 (アケビ)

新芽の葉と緑のつるの
やわらかい部分が食べられる

木が、野原が優しい小さい緑でヴェールをかけたように美しい季節がやってきました。
さあ、これから野草のベストシーズン! 森を歩けば足もとにウレイの若芽がにょきにょきと、あけびの
つるもくるくとまきはじめました。森を流れる小川にはハートの形と白い清楚なワサビの
花が咲きだしました。野原にはタンポポが満開! 子どもたちと競争したら100こくらいつめるかな!?
スギナも一緒に摘んだら、(しら! 今日の草旬ごはん、できあがり♪ : 菜々鬼)



スギナ

でずくの
これくらい
短い時が
おいしい。
ワサワサ
のびてきたら
干して
お茶にも♪



葉と花を
摘んでかじると
甘くてあとからほわと
ワサビの
香り!

ワサビ菜
葉の花の仲間です。

- 森と野原の和定食
あけびおしながき〜
・木通の新芽 菜ごり卵
・ワサビと海苔の佃煮
・スギナのおひたし
・うるいのワバみそ煮
・うるいとお豆腐のおみそ汁
・タンポポ蜜入りヨーグルト

うるい (ギボウシ)
この白い部分が食べられる
さっとゆでると、きゅっとササク
でおいしい。かきおふしを
かけても、おみそ汁にも。
サバの缶詰と煮て
おかずの一品にも♪

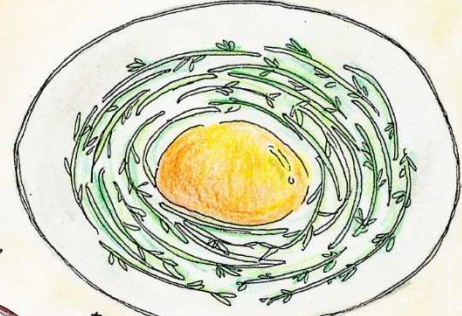


タンポポ蜜入り
ヨーグルト

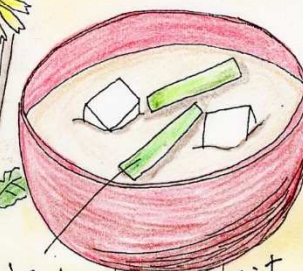
タンポポの花びら
でつくるジャム。ほのかに
香るタンポポの香り。
50くらい摘んでね!



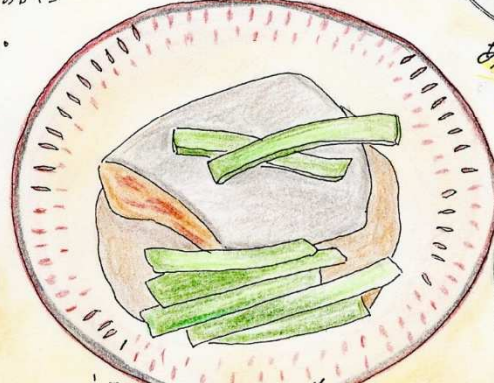
スギナのおひたし
さっとあくをぬいて、しょうがと
しょうゆでして、できあがり。



あけびの新芽
菜ごり卵
さっとゆでて 卵の黄身と
しょうゆでして。



うるいとお豆腐のおみそ汁



うるいのサバみそ煮



花わさびと海苔の佃煮
花と若菜と茎をきざんで
のりとしょうゆで (4347日本酒)
と和えるだけ♪



うるい
サラダに♪

たんたんはたけ

🌻 田んぼと 🌻 畑だより

🌻 4月15日(木)、おおきいくみのみんなと お米の種まきに行ってきました。朝、御代田のやまゆり公園に集合、そこからリュックを背負い、20分くらいの道のりを歩いて種まきをする田んぼへ。学年ごと好きなように3チームにわかれて作業しました。苗箱に土を入れ、板で平らにならし、水をまき、種もみをまき、手のひらでやさしく抑える。そして土をかぶせ、また板でならして水をまき、煙炭(お米のもみ殻を炭にしたもの)もまいて種まきは完了。スタッフができた苗箱をそーと田んぼの苗床におきます。こどもたちは、大きくなりますように、おいしいお米ができますように おまじない。

種まき作業 1人1人は 思い思いに。田んぼで どんどこかいじゅうやカエルとり(こんなにカエルがいたのーとびっくりするくらい 目にする ことのなかった カエルを どれだけつかまえたの...)、走りまわったり、草花をつんだり、どんどこの人たちを見ていたり、終わって いない 苗箱作業を手伝ってくれたり、それを応援したり...

🌻 翌週の4月21日(水)には、おおきいくみのみんなとじゃがいも植えに びっぴの畑へ。長ーい2列のうねに 合計 100この 種いもを、へそ(種いも)を浅間山に向けて植えました。さすが おおきいくみのみんな! という感じで あっというまに 完了。よく見ると、彦原を出したままの 種いもも見かけましたが... 次は スタッフエンドウ、大根、人参、麦の 種まきへ。さざかさんの説明を聞いて、まいていきます。いつでも 仕事をするよ、という人も、遊んでたくてうずうずしてる人も、手のひらにのった 種を しっかりまいて、その日の 種まきは 全て 終わりました。

ついにのあいたまでの、草もはえない、虫の姿を見ることもない、時間が止まっているかのような 土色の 景色を思い出し、春を どんなに 待ちわびていたんだと 実感するような 芽ぶきの季節... 新しく、ひとつ 学年が 上がってそれを 身体全部で 喜んでいるような こども達の姿に、頼もしく、嬉しくなる時間でした。

たくさんの 種まき作業 おつかれさまでした。ありがとう! おいしい時間を みんなで 味わえますように。

はるこ

ぴっぴだより 2021/4/28

お知らせ

今年度もおおくりさんの自然プログラム「ぼくの木 わたしの木」を行いました。「もう、ぼくの木 わたしの木を決めているんだあ！」と数人から言われ、子どもたちから「やりたい！」の声が始まりでした。その日、「おしゃべりな森」という絵本を読み、みんなで森を見まわしながら対話しながら進めていきました。「もう、決めた！」が多いので、「木の気持ちも聞いてね。木もいいよって言うてくれたら名前をつけてあげてね」それぞれに散らばって行き「お〜い、友だちになってくれるかあ？」と叫んでいる人もいれば、木を抱きしめている人もいます。「木の声が本当に聞こえてきた」と言いながら木の札を作っている人もいます。一年間、一本の木が一人の傍らにいて、きっと育ちを応援してくれるでしょう。

このプログラムの子どもたちの姿から、ぴっぴ創立 10 周年記念にぴっぴの園歌「ぼくの木 わたしの木」の言葉が生まれました。

ぼくの木よ きいてよ 言葉にならないこの気持ち
どうしていいのかわからない 耳をあてたら聞こえたよ
きみにながれる水の音 ありがとうありがとう いつもここにいてくれて

わたしの木よ きいてよ だれかに言いたいこの気持ち
とってもいいこと あったんだ 見あげたこずえの葉っぱたち
森のどこから風あつめたの ありがとうありがとう いつもここにいてくれて

園歌「ピッポロピッピ ポロピッピ」も子どもたちのエピソードから言葉ができました。ぼろぴっぴの子どもたちと言葉を創っていた時の情景や、オギタカさんが目の前で弾きながら歌いながら曲作りした時のわくわくした気持ちが甦ってきました。今年度は、ぴっぴ創立 15 周年、ぼろぴっぴ 10 周年の年です。みんなでどんなお祝いができるでしょう！

もう一つ、ご紹介したい歌があります。子どもたちと昨年度から歌い始めた歌「まえにすすもう」です。

こまった時はまえにすすもう こたえられない時は まえにすすもう
しゃべりたくない時も まえにすすもう みんなまえにすすんでる
さあ きみもまえにすすもう すすもう すすもう すすもう
ぜんぶできるようになってみよう

今年度、高校 1 年生になった英奈ちゃんの言葉と、お母さまのえみこさん作曲の歌で、英奈ちゃん卒園の時に生まれました。折に触れてみんなで歌っていききたい歌です。

今年も子どもたちといっぱい歌を楽しむ一年にしたいなあ。

：真弓